

**ご意見と教育委員会の考え方
(市立幼稚園の閉園に関する基本方針及び関連計画の素案のパブリックコメント)**

「日野市パブリックコメント手続実施要綱」では、提出されたご意見等を踏まえ計画等の案を修正したときは、当該修正の内容を記載して公表することとなっていますが、今回の回答には、各ご意見等に対する計画の修正の有無については記載しておりません。

本件については、令和4年10月29日の教育委員会臨時会にて、素案を引き続き検討する必要があると判断したため、今後、改めて修正素案を策定し、その修正素案に対するパブリックコメント及び説明会を実施いたします。その後、回答とともに計画の修正の有無について記載をすることになります。

ご意見(要旨)の欄は、表現はそれぞれ異なるものの、趣旨が重複するものは個別に記載していません。提出が早かった意見をベースに表示しています。

	ご意見(要旨)	教育委員会の考え方
1	<p>複数の子どもを育てる家庭では、まだ小さい子の養育には、目が離せず、母親は、就業したくても、どうしても子育てに専念しなければならない状態にあります。よって、保育園に通わせることも厳しく、幼稚園の存在が不可欠です。日野市として、幼稚園にこそ力を注ぎ、できれば「公立で3年幼稚園」「延長保育」など実現できれば、子育て世代は安心して子どもを増やし、幼稚園の必要性が高まるのではと考えます。</p> <p>子どもが減ったから幼稚園を廃園にするのではなく、子どもを安心して産み育てられるように、幼稚園を整備していく方が、有益なことと思います（合わせて、出産をあきらめる状況に追い込まれている市民がいる中で、一人でも必要としている子がいれば面倒見るべきであり、少子化対策の面でも有効。子どもが増える施策を考えることが、将来の日野につながるのではないか。などのご意見あり）。</p>	<p>日野市立学校適正規模・適正配置等検討委員会からの答申は、幼児人口の減少傾向や定員割れといった現状だけを踏まえて、公立幼稚園の園数を論じているものではありません。「公立幼稚園はこれまで就学前の幼児教育においてセンター的役割を果たしてきたことや、「子どもを取り巻く環境の変化とともに、その時代に即した教育の質をアップデートしながら幼児教育を提供してきたことに功績がある」ことについて言及しています。</p> <p>そのうえで、年々幼児人口が減少しており、今後も減少傾向が継続すると考えられること、また年々公立幼稚園の園児数も減少しており、幼児期の発達段階において集団性と協同性の芽生えを育む観点から一定数の望ましい学級人数が求められることなどから、3園を維持継続することは適正数とは考えにくく1園減らすこと、そして園舎の老朽化の状況から「第四幼稚園」を適正配置の対象とすること等を結論付けています。</p> <p>答申内容については、これまでの教育委員会定例会等での論議にて、妥当であり合理的なもの判断しています。そして今回の基本方針(素案)及び閉園計画(素案)は、この答申を踏まえて作成しました。</p> <p>また、私立幼稚園では3年保育や延長保育を行っているものの、在籍者が減少している状況です。これまで日野市が全国でも先進的に取り組んできた幼保小連携の取り組みなどを継続・推進し、多様性に応じた学びの充実を図るとともに、設置主体(公私)や施設類型(幼稚園、保育園、認定こども園)にとられず、幼児教育・保育の質の向上を総合的に推進してまいります。日野市らしい幼児教育の具現化を目指して、これまで公立幼稚園が蓄積してきたものも共有し、日野市全体の幼児教育の質の向上を図るための検討を、委員会を設置して今年度から進めてまいります。</p>
2	<p>老築化や洪水により浸水した時の修復による費用についても触れてありましたが、水害に関して言えば、第四小学校も同様ですよね。まず「廃園ありきで物事を進め、つぶすならどこにするかと理由付け」をしているように感じます。</p> <p>また、洪水による浸水は、ハザードマップをみると第二幼稚園も浸水の可能性があり、「浸水する可能性がある」という面では、第四幼稚園と同じではないでしょうか？(合わせて、災害時は第四小学校に避難できる、水害が心配なら多摩川の整備をしてほしい、などご意見あり)</p>	<p>日野市洪水ハザードマップでは第四幼稚園の浸水想定は3.0～5.0mとなっていることから、日野市立学校適正規模・適正配置検討委員会の答申である「仮に浸水した場合は幼稚園の機能を回復させるまでに時間を要することが想定される」との答申を尊重したものです。</p> <p>素案の趣旨は「仮に浸水があった場合の機能回復などに時間を要する」というものでしたが、表記の仕方に配慮が足りず、結果として地域にお住まいの皆様にはご不快な思いをさせてしまったことから、表記を削除いたします。</p>
3	<p>日野市の幼稚園が第四幼稚園を閉園すれば、幼稚園は、西側に偏り、東側に住む市民としては不公平です。しかも、車で登園できないとHPにありますが、車でないと送り迎えは無理です。(車や自転車のない家庭はどうするのでしょうか?)</p> <p>西側も東側も同じように税金を払う身として、住む場所によって大差がないようにしていただきたいです(合わせて、第四幼稚園近辺の保護者がやむなく、公立に通う事を断念せざるを得ない場合には、希望する私立園や保育園への補助金や優先入園など、なんらかの救済措置があっても良いのではないかと。バス運行などの方策を望む。といったご意見あり)。</p>	<p>公立幼稚園の通園方法は、これまで原則、徒歩か自転車としておりますが、第四幼稚園閉園後の第二幼稚園、第七幼稚園への通園方法については、一定の条件のもと自家用車による送迎を可能とすることを考えています。この条件については、例えば通園距離や園児・保護者の健康状態等への配慮などを踏まえながら、今後検討を進めてまいります。</p> <p>また、園バスの運行を行う場合には、第四幼稚園の地区限定ということではなく、市内全域の皆様を対象に行うことになって考えています。そうした場合には、園児の皆様の中には長時間バスに乗車していなければならないなどの課題があるといったことから、園バスの運行は難しいと考えております。</p>

ご意見と教育委員会の考え方

(市立幼稚園の閉園に関する基本方針及び関連計画の素案のパブリックコメント)

「日野市パブリックコメント手続実施要綱」では、提出されたご意見等を踏まえ計画等の案を修正したときは、当該修正の内容を記載して公表することとなっていますが、今回の回答には、各ご意見等に対する計画の修正の有無については記載しておりません。

本件については、令和4年10月29日の教育委員会臨時会にて、素案を引き続き検討する必要があると判断したため、今後、改めて修正素案を策定し、その修正素案に対するパブリックコメント及び説明会を実施いたします。その後、回答とともに計画の修正の有無について記載をすることになります。

ご意見(要旨)の欄は、表現はそれぞれ異なるものの、趣旨が重複するものは個別に記載していません。提出が早かった意見をベースに表示しています。

	ご意見(要旨)	教育委員会の考え方
4	<p>子どもは、第四幼稚園の「ぷちっこ」として幼稚園活動に参加し、そこで、仲間や先生たちにめぐり逢い、充実した、毎日を送っており、通う日を楽しみにしています。しかし、今の案では、登園できずに廃園になります。これは、「新！ひのっすくすくプラン(第2期日野市子ども・子育て支援事業計画)の子ども・子育て支援施策を総合的に推進し、切れ目のない支援による子育て環境の充実を目指す」に矛盾します。</p> <p>近くに、公立幼稚園があったので、ここに家を建て、子どもたちが大好きな幼稚園があったから、3人目通わせようと思った矢先に廃園は、あんまりです。</p> <p>また、この幼稚園で、知り合えた同じ世代の子を持つ見ええる親御さんとの出会いは貴重でした。一度廃園にしてしまえば、幼稚園を再び作ることはないでしょう。そこで育った子たちの学び舎はなくなってしまうのです。</p> <p>子どもの人数が減少して財源も有限であることは、重々承知していますが、子どもは、未来の財産です。</p> <p>今いる子や、これからの子どもたちのためにも廃園について、今一度、熟慮していただき、子育て世代が安心して、子どもを増やし育てられる環境になるよう望みます。</p>	<p>日野市立学校適正規模・適正配置等検討委員会からの答申は、幼児人口の減少傾向や定員割れといった現状だけを踏まえて、公立幼稚園の園数を論じているものではありません。「公立幼稚園はこれまで就学前の幼児教育においてセンター的役割を果たしてきた」とことや、「子どもを取り巻く環境の変化とともに、その時代に即した教育の質をアップデートしながら幼児教育を提供してきたことに功績がある」とことについて言及しています。</p> <p>そのうえで、年々幼児人口が減少しており、今後も減少傾向が継続すると考えられること、また年々公立幼稚園の園児数も減少しており、幼児期の発達段階において集団性と協同性の芽生えを育む観点から一定数の望ましい学級人数が求められることなどから、3園を維持継続することは適正数とは考えにくく1園減らすこと、そして園舎の老朽化の状況から「第四幼稚園」を適正配置の対象とすること等を結論付けています。</p> <p>答申内容については、これまでの教育委員会定例会等での論議にて、妥当であり合理的なものと判断しています。そして今回の基本方針(素案)及び閉園計画(素案)は、この答申を踏まえて作成しました。このため、評価いただいている公立幼稚園の良さやサービス内容を残したうえで、幼稚園数は必要最小限にしていくことも避けて通れないと考えております。</p> <p>一方で、2歳児、3歳児を対象としたプレ保育の取り組みである「ぷちっこ」については、登録されている方の多くが将来その園に入園させることを考えており、入園後も安心して園生活を送ることができるようにするために大きな役割を果たしていることを踏まえ、現在の「ぷちっこ」の2歳児が第四幼稚園で卒園できるよう、閉園時期については現在の素案で令和6年度末(令和7年3月31日)としているものを1年延長して、令和7年度末(令和8年3月31日)に修正する方針です。</p> <p>また、これまで日野市が全国でも先進的に取り組んできた幼保小連携の取り組みなどを継続・推進し、多様性に応じた学びの充実を図るとともに、設置主体(公私)や施設類型(幼稚園、保育園、認定こども園)にとらわれず、幼児教育・保育の質の向上を総合的に推進してまいります。日野市らしい幼児教育の具現化を目指して、これまで公立幼稚園が蓄積してきたものも共有し、日野市全体の幼児教育の質の向上を図るための検討を、委員会を設置して今年度から進めてまいります。</p>
5	<p>・東京は発達障害児が増える これから都心部は発達障害児が増えます。というのは子供が運動不足だからです。 エールで運動療法を見学してみてください。それはさながら子どもたちが自由に木にのぼり、枝にぶら下がり、堀によじ登って歩き、川に飛び込み石を積んだり投げたりして遊ぶ場を安全に再現しようとしているのだと感じました。</p> <p>習い事や体育のルールのある遊びではなく、体と頭をフルに開放した楽しいと思う状態で体を動かした遊びこそ療法にもなるそうです。</p> <p>数十年前まで幼少期の目一杯の遊びで自然と療法されていた子達がそうした環境が失われ、故意的に療育を受けなければならない状態になっているのが現代だと思われます。</p> <p>こうした理由で東京は発達障害と言われる子は増えていくはずで。</p>	<p>公立幼稚園における特別な支援を必要とするお子さんの受け入れについては、今後も必要な人員を配置して対応してまいります。</p> <p>また、日野市全体の幼児教育の質の向上を図るための検討を、委員会を設置して今年度から進めてまいります。今後は公立/民間・幼稚園/保育園問わず日野市の幼児教育全体として、公立幼稚園が蓄積してきたものを共有し、多様性の応じた学びの充実を図っていきたく考えます。</p>

ご意見と教育委員会の考え方

(市立幼稚園の閉園に関する基本方針及び関連計画の素案のパブリックコメント)

「日野市パブリックコメント手続実施要綱」では、提出されたご意見等を踏まえ計画等の案を修正したときは、当該修正の内容を記載して公表することとなっていますが、今回の回答には、各ご意見等に対する計画の修正の有無については記載しておりません。

本件については、令和4年10月29日の教育委員会臨時会にて、素案を引き続き検討する必要があると判断したため、今後、改めて修正素案を策定し、その修正素案に対するパブリックコメント及び説明会を実施いたします。その後、回答とともに計画の修正の有無について記載をすることになります。

ご意見(要旨)の欄は、表現はそれぞれ異なるものの、趣旨が重複するものは個別に記載していません。提出が早かった意見をベースに表示しています。

	ご意見(要旨)	教育委員会の考え方
6	<p>・私立幼稚園の障害児差別問題について 私立幼稚園は2歳3歳児の入園前の子に「プレ中絵本を座って聞けなかったので入園できません」と面接費用を払わせてから前もってきまっていた面接結果を知らせてきたり「発達障害があるなら公立へ」といわれると言ったことが起きています。 障害者差別ですが、結果公立幼稚園が拠り所となる親子も多いです。 どうぞエールやステップなどに通う保護者へ私立幼稚園の面接で嫌な思いをされたことはないかアンケートをとってください。</p>	<p>私立幼稚園にも支援が必要な子どもたちが入園しています。 市ではこれまで、私立・公立幼稚園に、臨床心理士等による巡回相談、保育カウンセラーの派遣を行い、保育者・保護者に対して支援を要する子どもたちに関するアドバイスをするともに、子育てに不安を抱える保護者へのカウンセリングを行うなど、一人一人の子ども・保護者に寄り添った支援を続けています。 これまで日野市が全国でも先進的に取り組んできた幼保小連携の取り組みなどを継続・推進し、多様性に応じた学びの充実を図るとともに、設置主体(公私)や施設類型(幼稚園、保育園、認定こども園)にとらわれず、幼児教育・保育の質の向上を総合的に推進してまいります。日野市らしい幼児教育の具現化を目指して、これまで公立幼稚園が蓄積してきたものも共有し、日野市全体の幼児教育の質の向上を図るための検討を、委員会を設置して今年度から進めてまいります。 支援を必要とするお子さんの対応については、市全体として公立、民間を問わずどの様にしていくか、今後の検討体制の中で議論を深め方向を出してしていきたいと考えています。 エールとの情報共有も引き続き図ってまいります。</p>
7	<p>・インクルーシブの叶った場を壊す必要がない 第四幼稚園では理想のインクルーシブが実現していました。そんな場を壊す必要はないと感じます。</p>	<p>これまで日野市が全国でも先進的に取り組んできた幼保小連携の取り組みなどを継続・推進し、多様性に応じた学びの充実を図るとともに、設置主体(公私)や施設類型(幼稚園、保育園、認定こども園)にとらわれず、幼児教育・保育の質の向上を総合的に推進してまいります。日野市らしい幼児教育の具現化を目指して、これまで公立幼稚園が蓄積してきたものも共有し、日野市全体の幼児教育の質の向上を図るための検討を、委員会を設置して今年度から進めてまいります。</p>
8	<p>・幼稚園の宣伝力に工夫を 日野市には発達支援センター「エール」があります。テレビ放送後から、市内にサポートすべき障害児がかなり増えているのではありませんか？人も多く越しているのではないかと。しかしその割には幼稚園の受け入れ先は限られ、小児心療内科を謳う病院も一つのみ。障害児の多さに対して器が日野市は整っていません。 親はアップアップしながら裏に縦る思いで引っ越してきた方もいるでしょう。公立幼稚園は全国でも数少なく、他地からの引っ越しでは馴染みの薄い「公立幼稚園」と言う存在を知らない人も多いはずです。実際四小に通って初めて知ったという人もいます。きちんとアピールしているでしょうか(合わせて、新入園児募集の周知の期間や方法の改善、産休育休の保育園の方を状況次第で幼稚園をすすめてはどうか、などのご意見あり)？ 公立ですから、スクールカウンセラーやエール、学校との連携もしやすく健常者も発達障害者も安心して通えるのはかなり強みです。</p>	<p>日野市立学校適正規模・適正配置等検討委員会からの答申の後、公立幼稚園の良さや課題を見直していく中で、課題のひとつとして、情報発信という点があげられました。 各園のホームページについてリニューアルを行ったほか、各園を紹介するリーフレットについても作成が進んでおり、情報発信の改善につながるものと考えております。 合わせて、新入園児の募集については皆さまからのご意見をもとに、日野市HPでの周知を例年より早めさせていただき、募集要項の表記については一部見直しをさせていただきました。</p>

**ご意見と教育委員会の考え方
(市立幼稚園の閉園に関する基本方針及び関連計画の素案のパブリックコメント)**

「日野市パブリックコメント手続実施要綱」では、提出されたご意見等を踏まえ計画等の案を修正したときは、当該修正の内容を記載して公表することとなっていますが、今回の回答には、各ご意見等に対する計画の修正の有無については記載しておりません。

本件については、令和4年10月29日の教育委員会臨時会にて、素案を引き続き検討する必要があると判断したため、今後、改めて修正素案を策定し、その修正素案に対するパブリックコメント及び説明会を実施いたします。その後、回答とともに計画の修正の有無について記載することになります。

ご意見(要旨)の欄は、表現はそれぞれ異なるものの、趣旨が重複するものは個別に記載していません。提出が早かった意見をベースに表示しています。

	ご意見(要旨)	教育委員会の考え方
9	公立幼稚園を閉園したら予算的には助かることでしょうか。財政難を掲げる日野市です。副市長は横領、先日は市長に二億円以上を出してゴミ処理場への公園問題を処理するようにと裁判もあり、市長個人が払える額ではなく、なんとか税金で出せないかと思案中とも思います。どう考えてもおかしい道の作りで、建設段階から違法ではと言われていたのではないのでしょうか？日野自動車工場が移したことも、日野市から工業商業が衰退していることも、一歳から見守ってきた私には全ては数十年後へのシュミレート不足と感じます。せっかくある設備です。閉園を決めてしまう前に、本当に使えないかもう一度よく考慮し潰す方に考えるのではなく、続ける方に考えてはどうでしょうか(合わせて、園舎や跡地の活用について検討したらどうかといったご意見あり)。	第四幼稚園の園舎は老朽化が著しく、再利用は難しいものと判断しています。跡地活用については、教育委員会における検討と併せ、市長部局と連携しながら、公共施設等総合管理計画の方針に基づき、市全体で検討を行ってまいります。その際には、園児や保護者の皆様の気持ちを受け止め、丁寧に進めてまいります。
10	納得する部分としましては、園舎の老朽化や、水害に対する不安のある立地であること。	日野市洪水ハザードマップでは第四幼稚園の浸水想定は3.0～5.0mとなっていることから、日野市立学校適正規模・適正配置検討委員会の答申である「仮に浸水した場合は幼稚園の機能を回復させるまでに時間を要することが想定される」との答申を尊重したものです。素案の趣旨は「仮に浸水があった場合の機能回復などに時間を要する」というものでしたが、表記の仕方に配慮が足りず、表記の仕方に配慮が足りず、結果として地域にお住まいの皆様にはご不快な思いをさせてしまったことから、表記を削除いたします。
11	残念ながら閉園する事になってしまった場合には、卒園児にお別れする機会を与えて頂きたいと思えます(合わせて、五幼の跡地など、更地のままで見ていると心苦しいといったご意見あり)。	・卒園者向けの開放日(お別れ会)を設けるなど、保護者の皆様とも一緒にできることを考えていきたいと思えます。 ・第五幼稚園では、園児の記念制作を第八小学校に展示しています。保護者の皆様が希望されるのであれば、こうした取り組みも参考してまいります。
12	市役所もエールもミライも私立幼稚園も全部西に作って東側を盛り上げる気はないのですか(合わせて、子連れで通いたい施設は四小、四幼地区にはないといったご意見あり)？	日野市における公共施設については、公共施設等総合管理計画においてそのあり方をお示しており、公共施設の老朽化の度合いや将来人口の動静、財政負担なども含めて、公共施設の今後のあり方や市域全体における最適な配置など、現在内容の改定を進めている状況です。
13	全く丁寧な説明はされていない。市民説明会の日程も疑問。追加された日程を幼稚園関係者の母達でまわすのはおかしい。四小の運動会だから日程変更をお願いしているのにずらさなかったのはなぜですか？(合わせて、地域の自治会に説明したのか、といったご意見あり)	説明会の日程についてですが、まずは在園児保護者向けの開催を最優先とさせていただき、それ以外の方がお越しいただきやすいよう、10月1日(土)10時の開催とさせていただきます。結果として、一部の方が参加しづらい条件となってしまう申し訳ございませんでした。同様の意見を頂戴したことから、同日16時から追加の開催を決定いたしました。また、皆様からのご意見を真摯に受け止め、10月23日(日)9時30分からの追加開催を決定し、周知についても保護者の皆様への学校配信メールや市公式LINEの活用など、改善させていただきました。

**ご意見と教育委員会の考え方
(市立幼稚園の閉園に関する基本方針及び関連計画の素案のパブリックコメント)**

「日野市パブリックコメント手続実施要綱」では、提出されたご意見等を踏まえ計画等の案を修正したときは、当該修正の内容を記載して公表することとなっていますが、今回の回答には、各ご意見等に対する計画の修正の有無については記載しておりません。

本件については、令和4年10月29日の教育委員会臨時会にて、素案を引き続き検討する必要があると判断したため、今後、改めて修正素案を策定し、その修正素案に対するパブリックコメント及び説明会を実施いたします。その後、回答とともに計画の修正の有無について記載をすることになります。

ご意見(要旨)の欄は、表現はそれぞれ異なるものの、趣旨が重複するものは個別に記載していません。提出が早かった意見をベースに表示しています。

	ご意見(要旨)	教育委員会の考え方
14	<p>集団性と協同性の芽生えを育む上での望ましい学級人数等の観点とありますが、では一体何人であれば望ましい人数なのでしょう？今現在、第四幼稚園の年長と年中に子供を通わせていますが、集団性と協調性が芽生えていないと感じたことは一切ありませんし、保護者サイドからもその様な意見は全くありません(合わせて、具体的にはどのくらいの人数なのかといったご意見あり)。</p>	<p>幼稚園教育要領では、「集団生活」に関する考え方とあわせて、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が示されています。そこには、協同性、道徳性・規範意識の芽生え、言葉による伝え合いなど、全部で10の姿が記されています。この10の姿とは、小学校入学前までに、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を具体的に示したものです。幼稚園教諭は、この10の姿を具体的にイメージし、幼児の発達や学びの個人差に留意しつつ、子どもたちが集団生活のなかで遊びを通じて、様々なことを学び成長していくよう日々の教育を行っております。</p> <p>実際の幼稚園現場では現在、一学級の園児数が十数名の状況で保育を行っております。幼稚園側に聴き取りをしたところ、欠席のお子さんが多い日は、一学級が6～7名となる場合があります。自発的に遊ぶ時間に友達と一緒に遊んだり、リレーやドッチボールなどの一斉での集団ゲームが成立したりするには、望ましい育ち合いにつながっていくためにも、欠席が多い日と同様に7名程度の人数は必要であると考えています。</p> <p>また、都内23区において、一学級に何人以上が必要か、その人数について把握している範囲では、5名、7名、8名、10名という人数になっています。なお、日野市の過去の公立幼稚園の統廃合において、同様の考えのもと、閉園する最終年度の4歳児の募集において10名以上の応募があった場合は受け入れられますが、10名に満たない場合は第二希望の園に応募があったとみなす対応をとっていたところです。</p> <p>以上のことから教育委員会では、幼児人口の減少と公立幼稚園への在籍児の減少が続いている現状において、幼児期の発達段階において集団性や協同性等の芽生えを育む観点から、学級人数として最低限必要な人数は、すぐにこの人数を用いて何かを判断するかということとは別としても、基本的な考え方として、これまでの10名ではなく、7人と考えております。</p>
15	<p>もし大きな地震が起こった際、車での迎えは困難になります。3.11の際は電車は止まり信号も止まり、道は瓦礫だらけ帰りたくても帰れない人が続出しました。もし、そんな災害が起こったらすぐにも子供の無事な姿を見て安心したいのにすぐに迎えに行ってもあげられません。兄弟がいれば更に時間がかかります。地震が起こった際の迎えに行くリスク等はどのように考えているのでしょうか？</p>	<p>日野市地域防災計画では、「保育園、幼稚園、学校等は、保護者等が帰宅困難となり、園児、児童、生徒を引き取ることが困難な場合においては、原則として保護者等への引き渡しを行うまでの間、園児、児童、生徒の保護に努めるとともに、必要に応じ、近隣の避難所と連携を図る。」としています。</p> <p>これを受け、日野市の幼稚園における防災教育の中では、「幼稚園は平素から幼稚園防災の方針や計画について地域や保護者に連絡し、これらの理解を求めその協力を得るようにする。例えば、災害発生時における幼稚園の措置、避難場所、管理・救急体制、幼児を保護者へ引き渡す方法などをあらかじめ示し、その協力を得るようにする。」としています。また各園には、園児数に応じ保存食(アレルギー対応食も含め)常備しています。保護者に安全かつ確実に引き渡すまでは、職員一体となり、子ども達のいのちを守ります。</p>

**ご意見と教育委員会の考え方
(市立幼稚園の閉園に関する基本方針及び関連計画の素案のパブリックコメント)**

「日野市パブリックコメント手続実施要綱」では、提出されたご意見等を踏まえ計画等の案を修正したときは、当該修正の内容を記載して公表することとなっていますが、今回の回答には、各ご意見等に対する計画の修正の有無については記載しておりません。

本件については、令和4年10月29日の教育委員会臨時会にて、素案を引き続き検討する必要があると判断したため、今後、改めて修正素案を策定し、その修正素案に対するパブリックコメント及び説明会を実施いたします。その後、回答とともに計画の修正の有無について記載をすることになります。

ご意見(要旨)の欄は、表現はそれぞれ異なるものの、趣旨が重複するものは個別に記載していません。提出が早かった意見をベースに表示しています。

	ご意見(要旨)	教育委員会の考え方
16	<p>閉園実施日:令和7年3月31日についてですが、なぜ令和7年3月31日なのですか? 急ぐ必要ってなんですか? 今プレで2、3歳の子達が通っています。日野市の広報で募集もしています。プレに通っているのに入れない? というのは通わせてる保護者や子供に対してあまりにも失礼ではないでしょうか? 日野市が募集をかけたならせめてそれは答えるべきなのではないですか? これでは詐欺と一緒にです。</p>	<p>このたびの素案の策定にあたり、令和6年度末の閉園を決定した背景は、幼児人口が減少し市立幼稚園への入園希望者数が非常に早いスピードで減少している状況のもとで、子どもたちが学び合い育ちあうためには一定数の人数が必要であるとの認識に立ち、協議した結果です。 一方で、閉園時期については多数のご意見をいただきました。「ぷちっこ」は、いわゆるプレ保育として保護者の皆さんにとって信頼できる第四幼稚園で、大切なお子さんが充実した幼稚園生活を送ってほしいという強い想いを受けとめる大切な役割を果たしていることから、「ぷちっこ」の現2歳児が第四幼稚園で卒園できるよう、閉園時期については素案で「令和6年度末」としているものを1年延期し、「令和7年度末」とすることとしました。あわせて、令和6年度入園予定の園児募集は、4歳児及び5歳児ともに行い、応募人数の下限は設けない方針です。</p>
17	<p>なぜ説明会に決定権のある方が在籍しないのでしょうか? 在園保護者の説明会と市民説明会両方参加させて頂きましたが、なんの決定権も無い方々がただ閉園ありきの説明を行っただけで、こちらがたくさんの意見を言っても、子供が減ってる、水害があったら機能回復できないしか返答が少なく質問と答えが違う事も多々ありました。果たしてこれは説明会なのでしょうか? これは素案素案と何度も言っていますが、『もう閉園は決定だからよろしくねー』と言われている感じでしかなかったです。決定権のある教育委員会の方が居ないのにどうやって決定するのか理解しかねます。</p>	<p>教育委員会は、教育長と4人の委員の計5名で組織され、教育行政の基本方針や重要施策、事項について審議し、意思を決定する合議制の機関です。 教育委員会にて決定した事項など、教育委員会の権限に属する事務を処理するのが事務局の役割となります。説明会でいただいたご意見については教育委員会に報告し、先般10月29日に開催した教育委員会臨時会では、説明会及びパブリックコメントのご意見などを踏まえて、素案の修正に関する基本的な考え方をとりまとめ、決定したところです。</p>
18	<p>(2)私立幼稚園との比較検討において園児一人あたりにかかる公費負担につき、格差・偏重が生じている。 について、私立との比較は適切なものでしょうか? 私立は家庭が選んで受験し入るところです。つまり、料金についても納得の上に入園させているんです。 全国一律3万円の補助なので、月々の利用費は園によって私立は自由に設定できますよね。市立と格差があるのは承知の上での入園です。税金を、納めた上でなおも園に支払う。そして、支払った分の教育内容を用意されてるから選んでるんですね。 公費負担といいますが、3歳児保育もなし、基本的な読み書きやピアノ教育等もなし、預かり保育もなし、だからこその利用費設定なのだと理解してます。 また、市立と私立で国からもらえる補助の負担の差、つまり日野市として負担という事ですよね? こうやってしっかり差をつけて、幼稚園運営されてるじゃないですか。でも、これは税金で賄われているものであり、私立の入園が困難な日野市民の家庭のために当然といえる負担なのではないでしょうか? なぜ市民の家庭・子どもの為にかかるといえる費用が、私立と比較されるのでしょうか?</p>	<p>日野市立学校適正規模・適正配置等検討委員会からの答申のなかに記されている「私立幼稚園との比較検討において園児一人あたりにかかる公費負担につき、格差・偏重が生じている。」の部分は、園児1人あたりにどれくらいの金額が市から投入されているか、すなわち園児1人の育ちを支えるにあたり保護者以外の市民も含め、どれくらいのコストがかかっているのかを比較した場合に、差があるという意味になります。保護者に負担していただく、保育料等の実費負担の比較ではありません。 なお、令和元年10月から施行された幼児教育・保育の無償化によって、保育料については公立、私立ともに無償化されており差はありません(入園準備や入園後の活動のためにかかる費用は、園ごとに異なります)。</p>

ご意見と教育委員会の考え方

(市立幼稚園の閉園に関する基本方針及び関連計画の素案のパブリックコメント)

「日野市パブリックコメント手続実施要綱」では、提出されたご意見等を踏まえ計画等の案を修正したときは、当該修正の内容を記載して公表することとなっていますが、今回の回答には、各ご意見等に対する計画の修正の有無については記載しておりません。

本件については、令和4年10月29日の教育委員会臨時会にて、素案を引き続き検討する必要があると判断したため、今後、改めて修正素案を策定し、その修正素案に対するパブリックコメント及び説明会を実施いたします。その後、回答とともに計画の修正の有無について記載をすることになります。

ご意見(要旨)の欄は、表現はそれぞれ異なるものの、趣旨が重複するものは個別に記載していません。提出が早かった意見をベースに表示しています。

	ご意見(要旨)	教育委員会の考え方
19	<p>日野市立学校適正規模、適正配置等検討委員会のメンバーの中で選出区分の保護者が、第二幼稚園関係の保護者であり、検討委員会に第四幼稚園の保護者がいないことで第四幼稚園の保護者の意見が反映されておらず、公平・公正に検討できているとは考えられない。 このメンバーを選出したこと自体に初めから問題があります。第四幼稚園の保護者も含めた適正配置等検討委員会を再度設置し、再度検討していくよう求めます。</p>	<p>日野市立学校適正規模、適正配置等検討委員会の委員は、学識経験者や小中学校の教職員、幼稚園の代表、公募も含む市民の代表から構成されます。1人だけの意見が反映されることはなく、様々な議論を重ね、答申を行った後、解散となります。この度の委員選定についても、規定に基づきこれまでと同様の構成であり、公募によって市民の方も2名参加しており、委員会での論議経過等を見ても、第四幼稚園の保護者や地域住民が含まれないことが論議の公平性に欠けるとは考えていません。</p>
20	<p>「(2)私立幼稚園との比較検討において園児一人あたりにかかる公費負担につき、格差・偏重が生じている。」 について、公立幼稚園の園児や職員が不当な事態に合わないか心配しています。文章に配慮が欲しいです。</p>	<p>日野市立学校適正規模・適正配置等検討委員会からの答申のなかに記されている「私立幼稚園との比較検討において園児一人あたりにかかる公費負担につき、格差・偏重が生じている。」の部分は、園児1人あたりにどれくらいの金額が市から投入されているか、すなわち園児1人の育ちを支えるにあたり保護者以外の市民も含め、どれくらいのコストがかかっているのかを比較した場合に、差があるという意味になります。</p>
21	<p>障害のある子ども普通級の子との関りがとても良い刺激となり、お互いにとって成長につながる貴重な時間を過ごせる大事な役割を担っており、補完的役割ではありません。 その問題を私立幼稚園や市がカバーする体制ができてから閉園を検討すべきであり、閉園してしまつて行き場のない幼児をどうするのか、その体制が出来上がるまでのその時に4歳5歳の子供がたくさんいるんです。</p>	<p>日野市立学校適正規模・適正配置等検討委員会からの答申は、幼児人口の減少傾向や定員割れといった現状だけを踏まえて、公立幼稚園の園数を論じているものではありません。「公立幼稚園はこれまで就学前の幼児教育においてセンター的役割を果たしてきたことや、「子どもを取り巻く環境の変化とともに、その時代に即した教育の質をアップデートしながら幼児教育を提供してきたことに功績がある」ことについて言及しています。 そのうえで、年々幼児人口が減少しており、今後も減少傾向が継続すると考えられること、また年々公立幼稚園の園児数も減少しており、幼児期の発達段階において集団性と協同性の芽生えを育む観点から一定数の望ましい学級人数が求められることなどから、3園を維持継続することは適正数とは考えにくく1園減らすこと、そして園舎の老朽化の状況から「第四幼稚園」を適正配置の対象とすること等を結論付けています。 答申内容については、これまでの教育委員会定例会等での論議にて、妥当であり合理的なものと判断しています。そして今回の基本方針(素案)及び閉園計画(素案)は、この答申を踏まえて作成しました。 また、私立幼稚園にも支援が必要な子どもたちが入園しています。 市ではこれまで、私立・公立幼稚園に、臨床心理士等による巡回相談、保育カウンセラーの派遣を行い、保育者・保護者に対して支援を要する子どもたちに関するアドバイスをするとともに、子育てに不安を抱える保護者へのカウンセリングを行うなど、一人一人の子ども・保護者に寄り添った支援を続けています。 これまで日野市が全国でも先進的に取り組んできた幼保小連携の取り組みなどを継続・推進し、多様性に応じた学びの充実を図るとともに、設置主体(公私)や施設類型(幼稚園、保育園、認定こども園)にとらわれず、幼児教育・保育の質の向上を総合的に推進してまいります。日野市らしい幼児教育の具現化を目指して、これまで公立幼稚園が蓄積してきたものも共有し、日野市全体の幼児教育の質の向上を図るための検討を、委員会を設置して今年度から進めてまいります。 エールとの情報共有も引き続き図ってまいります。</p>

ご意見と教育委員会の考え方

(市立幼稚園の閉園に関する基本方針及び関連計画の素案のパブリックコメント)

「日野市パブリックコメント手続実施要綱」では、提出されたご意見等を踏まえ計画等の案を修正したときは、当該修正の内容を記載して公表することとなっていますが、今回の回答には、各ご意見等に対する計画の修正の有無については記載しておりません。

本件については、令和4年10月29日の教育委員会臨時会にて、素案を引き続き検討する必要があると判断したため、今後、改めて修正素案を策定し、その修正素案に対するパブリックコメント及び説明会を実施いたします。その後、回答とともに計画の修正の有無について記載をすることになります。

ご意見(要旨)の欄は、表現はそれぞれ異なるものの、趣旨が重複するものは個別に記載していません。提出が早かった意見をベースに表示しています。

	ご意見(要旨)	教育委員会の考え方
22	<p>他の幼稚園も今後老朽化を理由に全園閉園ですか？ 多摩地域で唯一公立幼稚園がある事は日野市の魅力の一つなのにご存じですか？寄付を集める協力もできますし、直すことは考えられなかったのでしょうか合わせて、保護者の中には、1,200円という活動費をもっと増やして、園の修繕などに充ててもいいという保護者がたくさんいる、といったご意見あり。</p>	<p>日野市立学校適正規模・適正配置等検討委員会からの答申は、幼児人口の減少傾向や定員割れといった現状だけを踏まえて、公立幼稚園の園数を論じているものではありません。「公立幼稚園はこれまで就学前の幼児教育においてセンター的役割を果たしてきたことや、「子どもを取り巻く環境の変化とともに、その時代に即した教育の質をアップデートしながら幼児教育を提供してきたことに功績がある」ことについて言及しています。</p> <p>そのうえで、年々幼児人口が減少しており、今後も減少傾向が継続すると考えられること、また年々公立幼稚園の園児数も減少しており、幼児期の発達段階において集団性と協同性の芽生えを育む観点から一定数の望ましい学級人数が求められることなどから、3園を維持継続することは適正数とは考えにくく1園減らすこと、そして園舎の老朽化の状況から「第四幼稚園」を適正配置の対象とすること等を結論付けています。</p> <p>答申内容については、これまでの教育委員会定例会等での論議にて、妥当であり合理的なものと判断しています。そして今回の基本方針(素案)及び閉園計画(素案)は、この答申を踏まえて作成しました。これまで日野市が全国でも先進的に取り組んできた幼保小連携の取り組みなどを継続・推進し、多様性に応じた学びの充実を図るとともに、設置主体(公私)や施設類型(幼稚園、保育園、認定こども園)にとらわれず、幼児教育・保育の質の向上を総合的に推進してまいります。日野市らしい幼児教育の具現化を目指して、これまで公立幼稚園が蓄積してきたものも共有し、日野市全体の幼児教育の質の向上を図るための検討を、委員会を設置して今年度から進めてまいります。</p>
23	<p>公立の幼稚園の先生は本当に素晴らしい方ばかりです。 公務員であるため、中立な立場を取るしかなく、そのなかで日々できる限りを尽くしてくださっています。実際現場で現状を理解し、見ている先生方の声をもっと聴くべきだと思います。</p>	<p>公立園の職員を評価していただき、ありがとうございます。各園の職員の日頃の努力の積み重ねによるものなので、評価いただいていることを改めて職員に伝えさせていただきます。 今後も現場との連携を密にしてまいります。</p>
24	<p>時代の流れに合わせての閉園や統合はしょうがないことかと思えます。</p>	<p>日野市立学校適正規模・適正配置等検討委員会からの答申は、幼児人口の減少傾向や定員割れといった現状だけを踏まえて、公立幼稚園の園数を論じているものではありません。「公立幼稚園はこれまで就学前の幼児教育においてセンター的役割を果たしてきたことや、「子どもを取り巻く環境の変化とともに、その時代に即した教育の質をアップデートしながら幼児教育を提供してきたことに功績がある」ことについて言及しています。</p> <p>そのうえで、年々幼児人口が減少しており、今後も減少傾向が継続すると考えられること、また年々公立幼稚園の園児数も減少しており、幼児期の発達段階において集団性と協同性の芽生えを育む観点から一定数の望ましい学級人数が求められることなどから、3園を維持継続することは適正数とは考えにくく1園減らすこと、そして園舎の老朽化の状況から「第四幼稚園」を適正配置の対象とすること等を結論付けています。</p> <p>答申内容については、これまでの教育委員会定例会等での論議にて、妥当であり合理的なものと判断しています。そして今回の基本方針(素案)及び閉園計画(素案)は、この答申を踏まえて作成しました。</p>

**ご意見と教育委員会の考え方
(市立幼稚園の閉園に関する基本方針及び関連計画の素案のパブリックコメント)**

「日野市パブリックコメント手続実施要綱」では、提出されたご意見等を踏まえ計画等の案を修正したときは、当該修正の内容を記載して公表することとなっていますが、今回の回答には、各ご意見等に対する計画の修正の有無については記載しておりません。

本件については、令和4年10月29日の教育委員会臨時会にて、素案を引き続き検討する必要があると判断したため、今後、改めて修正素案を策定し、その修正素案に対するパブリックコメント及び説明会を実施いたします。その後、回答とともに計画の修正の有無について記載をすることになります。

ご意見(要旨)の欄は、表現はそれぞれ異なるものの、趣旨が重複するものは個別に記載していません。提出が早かった意見をベースに表示しています。

	ご意見(要旨)	教育委員会の考え方
25	<p>共働きの家庭が増えている現状を考えれば、幼稚園をただ統合するだけではなく、子ども園化を視野に入れた方が良いかと思えます。子ども園に変わるなら幼稚園よりニーズは増えることでしょう。</p> <p>他県より引越してきましたが、日野市は子ども園が2つしかなく、圧倒的に少ないと感じました。</p>	<p>日野市全体の幼児教育の質の向上を図るための検討を、委員会を設置して今年度から進めてまいります。今後は公立/民間・幼稚園/保育園問わず日野市の幼児教育全体として、公立幼稚園が蓄積してきたものを共有し、多様性の応じた学びの充実を図っていきたくと考えます。</p> <p>認定こども園は、教育と保育を一体的におこなう施設です。日野市の保育定員は、この数年で保育園の新規開設を行うことで大幅に増えました。その結果、待機児童が減少し、今後もこの傾向が続くものと見込んでいます。認定こども園を増やすことは、保育定員を増やすことでもあり、現在の保育需要から、これ以上の保育定員増は予定しておりません。そのため、今後の幼児人口や子育てニーズの動向を注視しつつ、公立や民間といった設置主体を問わず、市全体としてどのように定員を考えていくのかなど、検討が必要と考えます。</p>
26	<p>四幼閉園と閉園以外の方法での、採算やその改善効果を明示すべきと考えます。</p> <p>素案の「1 公立幼稚園の適正配置について」について、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・答申の付属資料「06.(資料6)市立幼稚園年度別園児数学級数」によると、令和3年度の欠員率が最も高いのは七幼で約66%です。四幼は約55%で3つの中で最も低いです。つまり、四幼が最も稼働していることとなります。 ・「(4)幼児期の発達段階において集団性と協同性の芽生えを育む観点から、一定数の望ましい学級人数が求められる。」とあります。一方、令和3年3月に、小学校における学級編成を40人から35人に引き下げる法案が可決・成立したように、少人数学級におけるきめ細やかかつ個別最適な指導を、文部科学省が目指しています。 <p>以上のことから、一定数の学級人数を目指すより、少人数での教育を実現するほうが、文科省の方針に即しているといえるのではないのでしょうか。その中でも一つの園を閉鎖しなければならないということであれば、おそらく採算が合わないというのが現実的な理由なのではないかと推測します。そうした場合、素案・答申の資料の中には、3園を維持するといくら採算があわず、四幼を閉鎖することによりどの程度採算が改善される予想なのか、が明示されておりません。</p> <p>定数を減らしたり、施設の一部でも老朽化・災害対策を施したり等、閉園以外の方法もあるのではないかと思います。閉園以外の方法について検討した結果、どうしても四幼を閉鎖しなければ採算が合わないのであれば、その検討結果を明示しなければ、当事者は納得できないと考えます(合わせて、日野市はこんなにも開発され、人口も増え、経済的にも潤っているように思えるといったご意見あり。)</p>	<p>子育て世代の減少や保育園ニーズの高まりから、市立幼稚園の在園者数が急激に減っている状況があり、これに対応するため、令和3年7月に検討委員会に諮問し、同年11月に答申を受けたのち、教育委員会にて委員との協議を経ながら、方針や計画の素案を作成してまいりました。</p> <p>幼稚園教育要領では、「集団生活」に関する考え方とあわせて、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が示されています。そこには、協同性・道徳性・規範意識の芽生え、言葉による伝え合いなど、全部で10の姿が記されています。この10の姿とは、小学校入学前までに、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を具体的に示したものです。幼稚園教諭は、この10の姿を具体的にイメージし、幼児の発達や学びの個人差に留意しつつ、子どもたちが集団生活のなかで遊びを通じて、様々なことを学び成長していくよう日々の教育を行っております。</p> <p>実際の幼稚園現場では現在、一学級の園児数が十数名の状況で保育を行っております。幼稚園側に聴き取りをしたところ、欠席のお子さんが多い日は、一学級が6～7名となる場合があります。自発的に遊ぶ時間に友達と一緒に遊んだり、リレーやドッチボールなどの一斉での集団ゲームが成立したりするには、望ましい育ち合いにつながっていくためにも、欠席が多い日と同様に7名程度の人数は必要であると考えています。また、都内23区において、一学級に何人以上が必要か、その人数について把握している範囲では、5名、7名、8名、10名という人数になってます。なお、日野市の過去の公立幼稚園の統廃合において、同様の考えのもと、閉園する最終年度の4歳児の募集において10名以上の応募があった場合は受け入れますが、10名に満たない場合は第二希望の園に応募があったとみなす対応をとっていたところです。以上のことから教育委員会では、幼児人口の減少と公立幼稚園への在籍児の減少が続いている現状において、幼児期の発達段階において集団性や協同性等の芽生えを育む観点から、学級人数として最低限必要な人数は、すぐにこの人数を用いて何かを判断するかということとは別としても、基本的な考え方として、これまでの10名ではなく、7人と考えております。</p> <p>令和4年11月1日から実施した令和5年度新規入園への応募状況が11月10日現在6名という状況や、未就学児人口の減少傾向を踏まえると、この7人の規模を維持していくことは難しく、日野市立学校適正規模・適正配置等検討委員会の答申にある「公立幼稚園の入園希望者数の人数の今後を想定すると3園を維持継続していくことは適正数とは考えにくい」は妥当であると、教育委員会として判断しています。</p>

ご意見と教育委員会の考え方

(市立幼稚園の閉園に関する基本方針及び関連計画の素案のパブリックコメント)

「日野市パブリックコメント手続実施要綱」では、提出されたご意見等を踏まえ計画等の案を修正したときは、当該修正の内容を記載して公表することとなっていますが、今回の回答には、各ご意見等に対する計画の修正の有無については記載しておりません。

本件については、令和4年10月29日の教育委員会臨時会にて、素案を引き続き検討する必要があると判断したため、今後、改めて修正素案を策定し、その修正素案に対するパブリックコメント及び説明会を実施いたします。その後、回答とともに計画の修正の有無について記載することになります。

ご意見(要旨)の欄は、表現はそれぞれ異なるものの、趣旨が重複するものは個別に記載していません。提出が早かった意見をベースに表示しています。

	ご意見(要旨)	教育委員会の考え方
27	<p>当事者に対する支援方針を明示すべきと考えます。「6 計画の推進」には、具体的な計画が明示されておりません。転園せざるを得ない園児や、プレ入園を予定していた子供たちやご家族を、市がどのような手段、どのような計画で支援していくか、具体策を明示すべきと考えます。</p>	<p>本計画については住民説明会及びパブリックコメントで多数のご意見をいただいている状況から、令和4年10月29日の教育委員会臨時会において再度協議を行った結果、引き続き検討が必要との判断に至りました。このことから、教育委員会では素案を修正する方向性についての基本的な考え方である「素案の修正案の骨子」をまとめました。今後、改めて説明会やパブリックコメントを実施しながら、計画の修正を進めてまいります。</p> <p>なお、2歳児、3歳児を対象としたプレ保育の取り組みである「ぶちっこ」については、登録されている方の多くが将来その園に入園させることを考えており、入園後も安心して園生活を送ることができるようにするために大きな役割を果たしていることを踏まえ、現在の「ぶちっこ」の2歳児が第四幼稚園で卒園できるよう、閉園時期については現在の素案で令和6年度末(令和7年3月31日)としているものを1年延長して、令和7年度末(令和8年3月31日)に修正する方針です。</p>
28	<p>日野市も少子化が進んでいるのでしょうか？私の周りや目にするお母さん方は、子沢山だったり双子のお母さんだったり、ほとんど一人っ子のお母さんを見かけないので信じがたいですが、地球環境の悪化は人口増加が原因の1つですし、昔は「明るい家族計画」が謳われましたし、かえって少子化は良いことではないかと思えます。</p>	<p>各年4/1時点での未就学児人口0~5歳児の合計を見ると H30: 9,280人 H31: 9,107人 R02: 9,090人 R03: 8,835人 R04: 8,464人 また、今年の4/1時点での各年齢別を見ていくと 0歳児: 1,254人 1歳児: 1,322人 2歳児: 1,384人 3歳児: 1,458人 4歳児: 1,456人 5歳児: 1,590人 となり、日野市においても少子化が進んでいる状況と捉えております。</p>
29	<p>市立幼稚園の閉園という課題に対して、方針等を策定し、進めようとする市の姿勢に対しては、率直にがんばっていただきたいと思えます。</p>	<p>日野市立学校適正規模・適正配置等検討委員会からの答申は、幼児人口の減少傾向や定員割れといった現状だけを踏まえて、公立幼稚園の園数を論じているものではありません。「公立幼稚園はこれまで就学前の幼児教育においてセンター的役割を果たしてきた」とことや、「子どもを取り巻く環境の変化とともに、その時代に即した教育の質をアップデートしながら幼児教育を提供してきたことに功績がある」とことについて言及しています。</p> <p>そのうえで、年々幼児人口が減少しており、今後も減少傾向が継続すると考えられること、また年々公立幼稚園の園児数も減少しており、幼児期の発達段階において集団性と協同性の芽生えを育む観点から一定数の望ましい学級人数が求められることなどから、3園を維持継続することは適正数とは考えにくく1園減らすこと、そして園舎の老朽化の状況から「第四幼稚園」を適正配置の対象とすること等を結論付けています。</p> <p>答申内容については、これまでの教育委員会定例会等での論議にて、妥当であり合理的なものと判断しています。そして今回の基本方針(素案)及び閉園計画(素案)は、この答申を踏まえて作成しました。</p>

**ご意見と教育委員会の考え方
(市立幼稚園の閉園に関する基本方針及び関連計画の素案のパブリックコメント)**

「日野市パブリックコメント手続実施要綱」では、提出されたご意見等を踏まえ計画等の案を修正したときは、当該修正の内容を記載して公表することとなっていますが、今回の回答には、各ご意見等に対する計画の修正の有無については記載しておりません。

本件については、令和4年10月29日の教育委員会臨時会にて、素案を引き続き検討する必要があると判断したため、今後、改めて修正素案を策定し、その修正素案に対するパブリックコメント及び説明会を実施いたします。その後、回答とともに計画の修正の有無について記載をすることになります。

ご意見(要旨)の欄は、表現はそれぞれ異なるものの、趣旨が重複するものは個別に記載していません。提出が早かった意見をベースに表示しています。

	ご意見(要旨)	教育委員会の考え方
30	<p>子どもを日野市で育てる一市民として、市立幼稚園があるから日野市の教育環境が優れていると感じたことはありません。むしろ、財政非常事態宣言を宣言している状況であれば、教育分野の予算の優先順位として、より多くの市民が対象となる、例えば学校施設の改修などに充ててほしい。なお、市立幼稚園の廃止＝弱者の切り捨てという単純な話ではなく、なぜ市が幼稚園という「ハコ」をもたないといけないのか、「ハコ」をもたずともやり方があるのではという認識だからです(他市では市立幼稚園がないから弱者が切り捨てられているという客観的なデータを見たことはありません)。市立幼稚園の利用者やその周辺の方から相当数の反対意見があることも予想され、正直説明会ではその方たちの主張の場となり時間があったくないので参加しません。</p>	<p>日野市立学校適正規模・適正配置等検討委員会からの答申は、幼児人口の減少傾向や定員割れといった現状だけを踏まえて、公立幼稚園の園数を論じているものではありません。「公立幼稚園はこれまで就学前の幼児教育においてセンター的役割を果たしてきたことや、「子どもを取り巻く環境の変化とともに、その時代に即した教育の質をアップデートしながら幼児教育を提供してきたことに功績がある」ことについて言及しています。</p> <p>そのうえで、年々幼児人口が減少しており、今後も減少傾向が継続すると考えられること、また年々公立幼稚園の園児数も減少しており、幼児期の発達段階において集団性と協同性の芽生えを育む観点から一定数の望ましい学級人数が求められることなどから、3園を維持継続することは適正数とは考えにくく1園減らすこと、そして園舎の老朽化の状況から「第四幼稚園」を適正配置の対象とすること等を結論付けています。</p> <p>答申内容については、これまでの教育委員会定例会等での論議にて、妥当であり合理的なものとして判断しています。そして今回の基本方針(素案)及び閉園計画(素案)は、この答申を踏まえて作成しました。</p>
31	<p>案の中で示されている「第二幼稚園・第七幼稚園の2園を中心に今後の公立幼稚園の体制を継続することとし、令和6年度末(2025年3月31日)をもって第四幼稚園を閉園とする計画を策定する。」という表現については、第二・第七幼稚園を今後も残すことを想定しての表現かと思いますが、現在の各園の在園児数や施設の老朽化の状況、公費の投入状況(運営費や改修費だけでなく、市職員の運営及び施設管理に要する人件費を含む)を考えれば、今回の方針において、段階的に全ての市立幼稚園の廃止も視野に検討を進めることを示すべきと考えます。</p> <p>ただし、「2 日野市らしい幼児教育、公立幼稚園のあり方」において、今後検討していくことも記載されているので、方針に明記することが困難であればしっかりと結論を出す時期を定め、進めてもらいたい。</p>	<p>今回の基本方針(素案)及び閉園計画(素案)の作成にあたっては、幼児人口や在籍児童数の状況等を見ながら、日野市立学校適正規模・適正配置等検討委員会に諮問しており、同委員会からの答申は、3園を維持継続することは適正数とは考えにくく1園減らすこと、そして園舎の老朽化の状況から「第四幼稚園」を適正配置の対象とすること等を結論付けています。答申内容については、これまでの教育委員会定例会等での論議にて、妥当であり合理的なものとして判断しています。そして今回の基本方針(素案)及び閉園計画(素案)は、この答申を踏まえて作成しました。</p> <p>日野市全体の幼児教育の質の向上を図るための検討を、あらたな委員会を設置して今年度から進めてまいります。日野市立学校適正規模・適正配置等検討委員会とは別の委員会となります。</p> <p>あらたな委員会では、これまで日野市が全国でも先進的に取り組んできた幼保小連携の取り組みなどを継続・推進し、多様性に応じた学びの充実を図るとともに、設置主体(公私)や施設類型(幼稚園、保育園、認定こども園)にとらわれず、幼児教育・保育の質の向上を総合的に推進してまいります。日野市らしい幼児教育の具現化を目指して、これまで公立幼稚園が蓄積してきたものも共有し、日野市全体の幼児教育の質の向上を図るための検討を進めてまいります。</p>
32	<p>公立の幼稚園が定員割れをしているとありますが、日野市外の幼稚園に通われているお子さんがどのくらい存在するか把握できているのか？世の中の動きとして保育園を希望される方が多いのはわかりますが、幼稚園を希望する方が市外に流れていると言う事は日野市内の公立や私立の幼稚園でカバーできていない問題があるからなのではないか？ (合わせて、発達の問題で市内の幼稚園を断られた為やむなく市外の幼稚園に通っている話も耳にしています、といったご意見あり)</p>	<p>市内に10の私立幼稚園がありますが、市外から通っている園児数及び市民の方で市外の私立幼稚園や認定こども園に通っている園児数は、市で把握していますが、市外の幼稚園を選択される理由について、現状では把握しておりません。</p>

**ご意見と教育委員会の考え方
(市立幼稚園の閉園に関する基本方針及び関連計画の素案のパブリックコメント)**

「日野市パブリックコメント手続実施要綱」では、提出されたご意見等を踏まえ計画等の案を修正したときは、当該修正の内容を記載して公表することとなっていますが、今回の回答には、各ご意見等に対する計画の修正の有無については記載しておりません。

本件については、令和4年10月29日の教育委員会臨時会にて、素案を引き続き検討する必要があると判断したため、今後、改めて修正素案を策定し、その修正素案に対するパブリックコメント及び説明会を実施いたします。その後、回答とともに計画の修正の有無について記載をすることになります。

ご意見(要旨)の欄は、表現はそれぞれ異なるものの、趣旨が重複するものは個別に記載していません。提出が早かった意見をベースに表示しています。

	ご意見(要旨)	教育委員会の考え方
33	<p>創立49年ということで園舎の老朽化が著しく進んでいるとのことですが、やはり一度も大きな改修工事せずすぐに閉園という方向にもっていく形は納得できるものではありません(合わせて、老朽化がどの園舎がどのくらい進んでいるのかといったデータはあるか、といった意見あり)。</p>	<p>第四幼稚園は園舎が昭和48年(1973年)1月に建築され、建築後49年が経過しております。これまでに必要な修繕等の維持補修を行っているほか、冷暖房設備を設置しました。また、今年度はトイレの改修等を予定しております。 第二・第七幼稚園は昭和60年(1985年)3月に建築された鉄筋コンクリート造の園舎で、建築後37年が経過していますが、構造と建築年次などからみても、3園の中では第四幼稚園の老朽化が進んでいる状況です。</p>
34	<p>(第四幼稚園は)災害の時にもいろいろな面で便利に活用できると思います。</p>	<p>日野市では洪水・土砂災害それぞれに応じたハザードマップを作成しております。それぞれの状況に応じた、避難所開設を行うこととなります。第四幼稚園は、避難所としての想定はしておりません。</p>
35	<p>子育てニーズの多様化が、なぜ公立幼稚園の児童数の減少につながるのか、説明が欲しい。</p>	<p>近年、女性の社会進出や長時間労働、共働き家庭の増加といった社会的要因により、子どもを低年齢から長時間預けられる環境が求められていることから、保育志向が高まりました。全国的にも待機児童が問題となり、日野市においても保育所等の整備による対策を進めた結果、待機児童は一定程度解消するに至りました。 平成30年度～令和4年度の5年間を比較しますと、未就学児人口(0～5歳児)は年々減少する中でも、保育園等の在籍者数は令和3年度まで増加し続けております。一方で、幼稚園の在籍者数は、公立私立問わず、年々減少しております。 子育てニーズの多様化により保育園志向が高まった結果、幼稚園を希望する人数が減少したものと考えております。</p>
36	<p>第四幼稚園の幼児数は、無償化ブームの年は減っているが、その後は横ばいです。むしろ、入園希望のタイミングの数字で4件増えています。無償化から2年しかたっていないので、今後の判断は難しく、このタイミングでの想定は信用できない。あと3年で集団教育ができないほどに減るとは思えない。根拠を示してほしい。</p>	<p>幼児教育無償化は令和元年(2019年)10月に始まりました。第四幼稚園の園児数(4歳児・5歳児の合計)の推移ですが、H29年度:62人、H30年度:49人、H31(R1)年度:44人、R2年度:42人、R3年度:29人、R4年度:26人となっており、無償化が始まる前から減少傾向にあります。 また、私立幼稚園の園児数についても、幼児教育の無償化があった令和元年度以降も、1,769人(R1)→1,500人(R4)と減少しているところです。 幼稚園教育要領に示されている通り、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿の中には、「協同性」や「道徳性・規範意識の芽生え」「言葉による伝え合い」も記されています。教育委員会では、幼稚園現場の実情や都内23区の公立幼稚園の実績などを踏まえ、幼児期の発達段階において集団性や協同性等の芽生えを育む観点から、学級人数として最低限必要な人数は7人と考えております。 令和4年11月1日から実施した令和5年度新規入園への応募状況が11月10日現在6名という状況や、未就学児人口の減少傾向を踏まえると、この7人の規模を維持していくことは難しく、日野市立学校適正規模・適正配置等検討委員会の答申にある「公立幼稚園の入園希望者数の人数の今後を想定すると3園を維持継続していくことは適正数とは考えにくい」は妥当であると、教育委員会として判断しています。</p>
37	<p>私立幼稚園は幼児教育無償化により、以前より多くの子どもが私立幼稚園を希望しているものと考えます。それに伴い、私立幼稚園側も入園させる子どもを選ばざるを得ず、幼稚園の子どもを入園させていると感じます。</p>	<p>私立幼稚園の在籍者数は、幼児教育の無償化があった令和元年度以降も、1,769人(R1)→1,500人(R4)と減少しています。また、一部の幼稚園では定員割れが出始めている状況です。</p>

**ご意見と教育委員会の考え方
(市立幼稚園の閉園に関する基本方針及び関連計画の素案のパブリックコメント)**

「日野市パブリックコメント手続実施要綱」では、提出されたご意見等を踏まえ計画等の案を修正したときは、当該修正の内容を記載して公表することとなっていますが、今回の回答には、各ご意見等に対する計画の修正の有無については記載しておりません。

本件については、令和4年10月29日の教育委員会臨時会にて、素案を引き続き検討する必要があると判断したため、今後、改めて修正素案を策定し、その修正素案に対するパブリックコメント及び説明会を実施いたします。その後、回答とともに計画の修正の有無について記載をすることになります。

ご意見(要旨)の欄は、表現はそれぞれ異なるものの、趣旨が重複するものは個別に記載していません。提出が早かった意見をベースに表示しています。

	ご意見(要旨)	教育委員会の考え方
38	<p>日野市立学校適正規模、適正配置等検討委員会では「日野市らしい幼児教育、公立幼稚園のあり方」として、こうした立地が恵まれている場合、学校統廃合や改修・大規模改修の時点で幼稚園と小学校の統合(空き教室の活用)を検討するとあり、本来の方針と逆行する。</p>	<p>学校統廃合や改修・大規模改修の時点で幼稚園と小学校の統合(空き教室の活用)という視点は重要と捉えております。 日野市全体の幼児教育の質の向上を図るための検討を、委員会を設置して今年度から進めてまいります。今後は公立/民間・幼稚園/保育園問わず日野市の幼児教育全体として、公立幼稚園が蓄積してきたものを共有し、多様性に応じた学びの充実を図っていきたくと考えます。この新たな体制の中で、どのように学びの充実を図っていけるか、ソフト・ハードの両面から検討する必要があると考えています。</p>
39	<p>第五幼稚園に通っておりました。そちらが閉園となり代替案として提示された第四幼稚園が短期間の間に閉園されることはおかしいと思います(合わせて、近くの公立幼稚園が閉園したことで、第四幼稚園に流れて行ったご家庭はたくさんいらっしゃると思いますといったご意見あり)。</p>	<p>日野市立学校適正規模・適正配置等検討委員会からの答申は、幼児人口の減少傾向や定員割れといった現状だけを踏まえて、公立幼稚園の園数を論じているものではありません。「公立幼稚園はこれまで就学前の幼児教育においてセンター的役割を果たしてきた」ことや、「子どもを取り巻く環境の変化とともに、その時代に即した教育の質をアップデートしながら幼児教育を提供してきたことに功績がある」ことについて言及しています。 そのうえで、年々幼児人口が減少しており、今後も減少傾向が継続すると考えられること、また年々公立幼稚園の園児数も減少しており、幼児期の発達段階において集団性と協同性の芽生えを育む観点から一定数の望ましい学級人数が求められることなどから、3園を維持継続することは適正数とは考えにくく1園減らすこと、そして園舎の老朽化の状況から「第四幼稚園」を適正配置の対象とすること等を結論付けています。 答申内容については、これまでの教育委員会定例会等での論議にて、妥当であり合理的なものと判断しています。そして今回の基本方針(素案)及び閉園計画(素案)は、この答申を踏まえて作成しました。 公立幼稚園の通園方法は、これまで原則、徒歩か自転車としておりますが、第四幼稚園閉園後の第二幼稚園、第七幼稚園への通園方法については、一定の条件のもと自家用車による送迎を可能とすることを考えています。この条件については、例えば通園距離や園児・保護者の健康状態等への配慮などを踏まえながら、今後検討を進めてまいります。</p>
40	<p>公立幼稚園がない地域の私は、支援が必要な子を受け入れるための受け皿がしっかりと整っているところが多い。市の説明では、公立幼稚園をただなくすのでは、今まで培われてきたノウハウを私立幼稚園にも活かしていきたい、と説明したが、現状支援が必要な子がたくさん私立幼稚園を断られて公立幼稚に来ることか、今はほぼ、私立幼稚園で支援が必要な子を受け入れることは不可能と考える。私立幼稚園に経験豊富な支援員を十分に配置し、現職の教諭がしっかりと理解しサポート出来る体制を整えてからでないと公立幼稚園をなくすことを考えるべき(合わせて、閉園後の支援を必要とするお子さんの受け皿として、エールの定員を増やすのか、私立幼稚園にお願いして補助金などを投入し受け入れ数を増やす方向で行くのか?それとも市外の幼稚園に委ねて行くのか?私立幼稚園の定員割れの原因は、幼児人口の減少ではなく、魅力がない、体質が古いため。といったご意見あり)。</p>	<p>私立幼稚園にも支援が必要な子どもたちが入園しています。 市ではこれまで、私立・公立幼稚園に、臨床心理士等による巡回相談、保育カウンセラーの派遣を行い、保育者・保護者に対して支援を要する子どもたちに関するアドバイスをするとともに、子育てに不安を抱える保護者へのカウンセリングを行うなど、一人一人の子ども・保護者に寄り添った支援を続けています。これまで日野市が全国でも先進的に取り組んできた幼保小連携の取り組みなどを継続・推進し、多様性に応じた学びの充実を図るとともに、設置主体(公私)や施設類型(幼稚園、保育園、認定こども園)にとらわれず、幼児教育・保育の質の向上を総合的に推進してまいります。日野市らしい幼児教育の具現化を目指して、これまで公立幼稚園が蓄積してきたものも共有し、日野市全体の幼児教育の質の向上を図るための検討を、委員会を設置して今年度から進めてまいります。 支援を必要とするお子さんの対応については、市全体として公立、民間を問わずどの様にしていくか、今後の検討体制の中で議論を深め方向を出していきたくと考えています。 エールとの情報共有も引き続き図ってまいります。</p>